

長崎大学病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。麻酔科専攻医を指導する専門研修指導医が必要とする情報は**麻酔科専攻医指導者研修マニュアル**に記されている。研修プログラムの整備基準は**専門研修プログラム整備基準**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 初年度は基本的に長崎大学病院で研修する。2年度以降は専攻医の希望を重視して研修施設をきめる。
- 初年度に長崎大学病院で研修できない場合、残り3年間のうち少なくとも1年間は長崎大学病院で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- 連携施設に専門病院はないので、どの連携施設でも症例に偏りなく研修出来る。

研修実施計画例

	A	B	C	D
初年度	長崎大学病院	長崎大学病院	長崎大学病院	連携施設
2年度	長崎大学病院	連携施設	長崎大学病院	連携施設
3年度	連携施設	連携施設	連携施設	連携施設
4年度	連携施設	長崎大学病院	長崎大学病院	長崎大学病院

週間スケジュール（長崎大学病院麻酔科ローテーションの例）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	ICU	手術室	手術室	休み	休み
当直		ICU当直					

到達度、症例経験数に応じて、ペインクリニック、緩和ケア、救急などのローテーションが可能。

- 抄読会（月曜日）：英文科学論文の紹介，研究経過の報告。
- 勉強会（火曜日，水曜日）：周術期管理に関する基本と応用について指導医が解説。
- 麻酔科カンファレンス・症例検討会（土曜日）：麻酔，集中治療，ペインクリニック，緩和ケア，救急における問題症例や興味深い症例について討議。
- 複数診療科による術前症例検討会（木曜日）：術前の問題症例について，外科系診療科や内科系エキスパートと合同で安全な周術期管理計画を討議。
- 学会，研究会：年1回以上，筆頭演者として発表。発表者には経費を補助。
- 論文：研修中に1編以上作成。
- 自己学習環境：個人専用の学習スペースを確保。
- 文献・教材：長崎大学契約の電子ジャーナルやデータベースを利用可能。

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：21,958症例

本研修プログラム全体における総指導医数：45人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	851症例
帝王切開術の麻酔	498症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	552症例
胸部外科手術の麻酔	790 症例
脳神経外科手術の麻酔	858症例

① 専門研修基幹施設

長崎大学病院

研修プログラム統括責任者：原 哲也

専門研修指導医		専門医	
原 哲也	麻酔	白石 早紀	麻酔
前川 拓治	麻酔	荒木 博子	麻酔
吉富 修	麻酔	吉崎 真依	麻酔
柴田 伊津子	麻酔	山下 春奈	麻酔
村田 寛明	麻酔	山本 裕梨	麻酔
稲富 千亜紀	麻酔	中尾 秋葉	麻酔
穠山 大治	麻酔	石崎 泰令	麻酔
一ノ宮 大雅	麻酔	高村 敬子	麻酔
関野 元裕	集中治療	辻 史子	麻酔
松本 周平	集中治療	卜部 繁彦	麻酔
東島 潮	集中治療	矢野 倫太郎	集中治療
井上 陽香	集中治療	江頭 崇	集中治療
松本 総治朗	集中治療		
樋田 久美子	ペイン		
石井 浩二	緩和ケア		

研修委員会認定病院番号 第22号

麻酔科管理症例数6,699症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	481症例
帝王切開術の麻酔	92症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	239症例
胸部外科手術の麻酔	263症例
脳神経外科手術の麻酔	239症例

② 専門研修連携施設A

長崎みなとメディカルセンター

研修実施責任者：三好 宏

専門研修指導医		専門医	
三好 宏	麻酔		
浦松 可奈子	麻酔		
岡田 恭子	麻酔		

研修委員会認定病院番号 第529号

麻酔科管理症例数1,883症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	28症例
帝王切開術の麻酔	7症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	130症例
胸部外科手術の麻酔	133症例
脳神経外科手術の麻酔	106症例

済生会長崎病院

研修実施責任者：諸岡 浩明

専門研修指導医		専門医	
諸岡 浩明	麻酔	小出 史子	麻酔
橋口 英雄	麻酔		
柴田 治	麻酔		

麻酔科認定病院番号 第1263号

麻酔科管理症例数 1,551症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	1症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	1症例
脳神経外科手術の麻酔	2症例

長崎原爆病院

研修実施責任者：津田 敦

専門研修指導医		専門医	
津田 敦	麻酔	小形 寛奈	麻酔
猪熊 美枝	麻酔	北島 美有紀	麻酔
後藤 慎一	緩和ケア		

麻酔科認定病院番号 第948号

麻酔科管理症例数1,447症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	18症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	130症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

佐世保市総合医療センター

研修実施責任者：原 克己

専門研修指導医		専門医	
原 克己	麻酔	青木 浩	麻酔
澄川 耕二	麻酔	鶴長 容子	麻酔
鳥羽 晃子	麻酔		
榎田 徹次	集中治療		
富安 志郎	緩和ケア		

麻酔科認定病院番号 第401号

麻酔科管理症例数 2,513症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	10症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	10症例
胸部外科手術の麻酔	10症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

長崎労災病院

研修実施責任者：寺尾 嘉彰

専門研修指導医		専門医	
寺尾 嘉彰	麻酔	中村 利秋	集中治療
福崎 誠	麻酔	大路 奈津子	ペイン
大路 牧人	ペイン		

麻酔科認定病院番号 第288号

麻酔科管理症例数2,620症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	11症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	6症例
脳神経外科手術の麻酔	105症例

佐世保共済病院

研修実施責任者：深野 拓

専門研修指導医		専門医	
深野 拓	麻酔		
木本 文子	麻酔		
別府 幸岐	麻酔		
境 徹也	ペイン		

麻酔科認定病院番号 第875号

麻酔科管理症例数1,640症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	34症例
帝王切開術の麻酔	126症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	7症例
脳神経外科手術の麻酔	2症例

長崎医療センター

研修実施責任者：山口 美知子

指導医		専門医	
山口 美知子	麻酔	藤田 靖子	麻酔
谷口 美和	麻酔	荒木 寛	麻酔
長岡 京子	麻酔	望月 夏紀	麻酔
濱田 梢	麻酔		

麻酔科認定病院番号 第470号

麻酔科管理症例数 3,163症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	183症例
帝王切開術の麻酔	214症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	85症例
胸部外科手術の麻酔	137症例
脳神経外科手術の麻酔	268症例

諫早総合病院

研修実施責任者：酒井 一介

専門研修指導医		専門医	
酒井 一介	麻酔	吉田 操	麻酔
新谷 貞代	麻酔		
山下 彦馬	麻酔		

麻酔科認定病院番号 第982号

麻酔科管理症例数 1,483症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	27症例
帝王切開術の麻酔	59症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	59症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

大村市民病院

研修実施責任者：蓮尾 浩

専門研修指導医		専門医	
蓮尾 浩	麻酔		

麻酔科認定病院番号 第764号

麻酔科管理症例数639症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	41症例
胸部外科手術の麻酔	14症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

長崎県島原病院

研修実施責任者：田中 敏普

専門研修指導医		専門医	
田中 敏普	麻酔		
柴田 茂樹	麻酔		

麻酔科認定病院番号 第1438号

麻酔科管理症例数 605症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	3症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	45症例

北九州市立八幡病院

研修実施責任者：金色 正広

専門研修指導医		専門医	
金色 正広	麻酔		
斎藤 将隆	麻酔		

麻酔科認定病院番号 第326号

麻酔科管理症例数888症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	32症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	10症例
脳神経外科手術の麻酔	6症例

周南記念病院

研修実施責任者：堤 要介

専門研修指導医		専門医	
堤 要介	麻酔	田中 絵理子	麻酔

麻酔科認定病院番号 第1656号

麻酔科管理症例数 660症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	3症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	22症例
胸部外科手術の麻酔	20症例
脳神経外科手術の麻酔	85症例

③ 専門研修連携施設B

小倉記念病院

研修実施責任者：瀬尾 勝弘

指導医		専門医	
瀬尾 勝弘	麻酔	溝部 圭輔	麻酔
中島 研	麻酔	鴛渕 るみ	麻酔
宮脇 宏	麻酔	松本 恵	麻酔
角本 眞一	麻酔	馬場 麻理子	麻酔
近藤 香	麻酔	生津 綾乃	麻酔
松田 憲昌	麻酔	小林 芳枝	麻酔
栗林 淳也	麻酔		

麻酔科認定病院番号 第52号

麻酔科管理症例数 3,034症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	25症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

5. 募集定員

14名

（＊募集定員は、4年間の経験必要症例数が賄える人数とする。複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

日本専門医機構に定められた方法により、期限までに応募する。

④ 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、長崎大学病院麻酔科および医療教育開発センター
専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能。

長崎大学病院 麻酔科 原 哲也

長崎県長崎市坂本1丁目7番1号 TEL: 095-819-7874 FAX: 095-819-7373

E-mail: tetsuya@ml.nagasaki-u.ac.jp

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1～2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。到達度に応じて、心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、指導医のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などの経験をさらに増やし、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修 4 年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院が数多く入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。